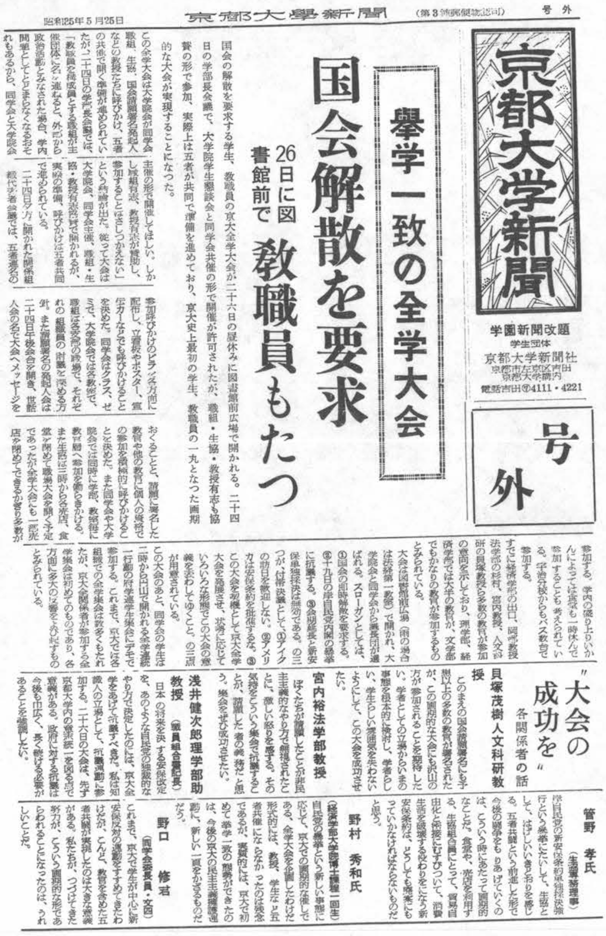

京都大学新聞

学園新聞改題
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
電話吉田⑦4111・4221

号外

挙学一致の全学大会

国会解散を要求

26日に図書館前で　教職員もたつ

国会の解散を要求する学生、教職員の京大全学大会が二十六日の昼休みに図書館前広場で開かれる。二十四日の学部長会議で、大学院学生懇談会と同学会共催の形で開催が許可されたが、職組・生協・教授有志も協賛の形で参加、実際上は五者が共同で準備を進めており、京大史上最初の学生、教職員の一丸となつた画期的な大会が実現することになつた。

この全学大会は大学院会が同学会、職組、生協、国会請願署名発起人などの教授たちに呼びかけ、五者の共催で開く準備が進められていたが、二十四日の学部長会議では、「教職員を構成員とする職組が主催団体に名を連ねると、外部から政治活動とみなされた場合、学内問題としてとどまらなくなるおそれもあるから、同学会と大学院会主催の形で開催してほしい。しかし職組有志、教授有志が賛助し、参加することはさしつかえない」という結論が出た。従って大会は大学院会、同学会主催、職組・生協・教授有志協賛で開かれるが、実際の準備、呼びかけは五者共同で進められている。

二十四日夕方に開かれた関係組織代表者会議では、五者連名の参加呼びかけのビラを各方面に配布し、立看板やポスター、宣伝カーなどでも呼びかけることを決めた。同学会はクラス、ゼミで、大学院会では各教室で、職組は各支部の職場で、それぞれの組織員の討議を深める方針。また請願署名の発起人会は二十四日午後会合を開き、世話人会の名で大会へメッセージをおくることと、請願に署名した教官や他の教官に個人の資格での参加を積極的に呼びかけることを決めた。また同学会や大学院会では同時に学部、教室毎に教官層へ参加を働らきかける。また生協は三時から各売店、食堂を閉めて職場大会を開く予定であったが全学大会にも一部売店を閉めてできるかぎり多数が参加する。学内の盛り上りいかんによっては食堂も一時休んで参加することも考えられている。宇治分校からもバス数台で参加する。

すでに経済学部の出口、岡部教授、法学部の杉村、宮内教授、人文科研の貝塚教授ら多数の教官が参加の意向を示しており、理学部、経済学部では大半の教官が、文学部でもかなりの教官が参加するものとみられている。

大会は図書館前広場（雨の場合は法経第一教室）で開かれ、大学院会と同学会から議長団が選ばれる。スローガンとしては、①国会の即時解散を要求する。②十九日の岸自民党内閣の暴挙に抗議する。③会期延長と新安保単独採決は無効である。の三つが、付帯決議として、①アイクの訪日を歓迎しない。②アメリカは安保条約を批准するな。③この大会を契機として京大全学大会を発展させ、状勢に応じていろいろな形態でこの大会の意義を表わしてゆくこと。の三点が用意されている。

この大会のあと、同学会の学生は二時から円山で開かれる全学連統一行動の府学連学生集会にデモで参加する。これまで、京大では各組織での全学集会は数多くもたれたが、京大全関係者が参加する全学集会は初めてのものであり、各方面に多大の反響をよび起すものとみられている。

”大会の成功を”

各関係者の話

貝塚茂樹人文科研教授

このまえの国会請願署名にも予想以上の多数の教官が署名されたが、この画期的な大会にも沢山の方が参加されることを期待したい。学者としての立場からいまの事態を根本的に検討し、学者らしい、学生らしい雰囲気を失わないようにして、この大会を成功させたい。

宮内裕法学部教授

ぼくたちが請願したことが非民主主義的なやり方で無視されたことに、激しい怒りを感ずる。その気持をこういう集会で抗議することが、請願した者の義務だと思う。集会をぜひ成功させたい。

浅井健次郎理学部助教授（職員組合書記長）

日本の将来を決する安保改定を、あのような自民党の独裁的なやり方で決定したのには、京大全学をあげて抗議すべきだ。私は知識人の立場として、抗議運動に参加する。二十六日の大会は、先ず京都大学内の意志統一を図る点で意義がある。政府に対する抗議は今後も巾広く、長く続ける必要があることを強調したい。

管野　孝氏（生協事務理事）

岸自民党の新安保条約単独採決強行という暴挙にたいして、生協として、はげしいいきどおりを感じる。五者共闘という前進した形で今後の闘争をもりあげていくのは、こういう時にあたって画期的なことだ。食堂や、売店を利用する、生協組合員にとって、貿易自由化と密接にむすびついて、消費生活を破壊する役わりをになう新安保条約は、どうしても廃案にもっていかなければならないものだと思う。

野村　秀和氏（経済学部大学院博士課程一回生）

自民党の暴挙という新しい事態に応じて、京大での画期的な催しである、全学大会を企画したわけだ。形式的には、教授、学生など五者共催にならなかったのは残念であるが、実質的には、京大で初めて挙学一致の態勢ができたのは、今後の京大の民主主義擁護運動に、新しい一頁をかざるものだろう。

野口　修君（同学会委員長・文四）

これまで、京大で学生が中心に新安保反対の運動をすすめてきたわけだが、こんど、教官を含めた五者共闘が実現したのは大きな意義がある。私たちが、つづけてきた努力が、こういう画期的な形であらわれることになったのは、うれしいことだ。